

保護者等からの児童発達支援事業所評価の集計結果(公表)

公表:令和6年1月 20日

事業所名 こぼんはうすくら 札幌元町教室

保護者等数(児童数) 12(16) 回収数 12 割合 100%

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	わから ない	ご意見	ご意見を踏まえた 対応
環境・ 体制整備	1	子どもの活動等のスペースが十分に確保されているか	11			1		連絡帳だけでは活動の様子が見えないこともあるので、保護者会などの時に見学できるような機会を設けたい。
	2	職員の配置数や専門性は適切であるか	5			7		契約時に職員数の説明は必ずしているが、HPなどでもお知らせする必要があるのかも考えられない。今後、検討していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすい構造化された環境になっているか。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされているか	10			1		連絡帳だけでは活動の様子が見えないこともあるので、保護者会などの時に見学できるような機会を設けたい。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境となっているか。また、子ども達の活動に合わせた空間となっているか	11			1		連絡帳だけでは活動の様子が見えないこともあるので、保護者会などの時に見学できるような機会を設けたい。
適切な 支援の 提供	5	子どもと保護者のニーズや課題が客観的に分析された上で、児童発達支援計画が作成されているか	12					
	6	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか	11			1		ガイドラインの存在や項目があることを保護者の方に細かくお知らせするのはまずかしいと思うが、計画作成や契約時に項目があることについて周知していきたい。
	7	児童発達支援計画に沿った支援が行われているか	9			3		2月期なので、モニタリングが行えていないケースもある。今後、話す機会を設けて共通理解を作っていく。
	8	活動プログラムが固定化しないよう工夫されているか	11					
	9	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会があるか	4			8		そのような機会は今のところ作っていない。今後機会を作るかは未定。保護者さんからの希望があれば検討したい。
保護者 への 説明等	10	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明がなされたか	12					
	11	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら、支援内容の説明がなされたか	12					
	12	保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)が行われているか	5			6		ペアレントトレーニングが実施できるほどの余裕が今のところない。今後、学び深めていきたい。
	13	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解ができているか	10			2		モニタリングの時期がまだであるなどで、振り返りや共有ができていないことが考えられる。きちんと面談をして情報を伝え共通理解を作っていく。
	14	定期的に、保護者に対して面談や、育児に関する助言等の支援が行われているか	8			3	1	まだ入所したばかりで分からない。来年度に支援されていると感じられるように、かかわっていく。
	15	父母の会の活動の支援や、保護者会等の開催等により保護者同士の連携が支援されているか	5			2	5	利用のタイミングによりご存知ない方もいる模様。9月に一度開催し好評だったので、次回に参加していただけるように周知していく。
	16	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制が整備されているとともに、子どもや保護者に周知・説明され、相談や申入れをした際に迅速かつ適切に対応されているか	10			1	1	基本的にラインのやり取りをしているので、タイミングによっては電話の方が早いこともある。相談や申し入れについては迅速に対応している。
	17	子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮がなされているか	10			1	1	支援の中では絵カードや写真など、発達レベルに応じた提示を心掛けている。
	18	定期的に会報やホームページ等で、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報や業務に関する自己評価の結果を子どもや保護者に対して発信されているか	8			2	2	会報はあるが、発行の回数は少ないので、今後増やして周知していきたい。
19	個人情報の取扱いに十分注意されているか	9				3	鍵のかかる書庫に保管している。	
非常時 等の 対応	20	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、保護者に周知・説明されているか。また、発生を想定した訓練が実施されているか	4			1	7	事業所内の準備はあるが、保護者への周知はしていないかった。次回からは周知していきたい。
	21	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出、その他必要な訓練が行われているか	6				6	避難訓練は行っているが、保護者への周知不足はあった。せっかくやっているのにもったいないので、次回からは周知に努める。
満足 度	22	子どもは通所を楽しみにしているか	11			1		楽しんでもらえるように努めたい。
	23	事業所の支援に満足しているか	10			1	1	満足七ただ蹴るよう努めたい。

204 0 14 55

75%

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

公表:令和6年1月 20日

事業所名 こばんはうすくら 札幌元町教室

	チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1 利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	7	1	8名以上になると、一階のスペースが狭くなるので運動遊びなどが難しいことがある。	人数に応じて、一階と二階に分けるなどして、活動のスペースを確保していることもあり、今後もそうしていきたい。
	2 職員の配置数は適切であるか	6	2		法的には適切な配置をしているが、利用のお子さんの個性により、もう少し多い方がより余裕のある対応ができると感じる。
	3 生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障害の特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	8		一日のプログラムを視覚的に提示している。見て、今何をやっているのかわかるように気を付けている。	
	4 生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	8			
業務改善	5 業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	7	1	個別課題等の記録は、担当者がコメントを入れている。その結果、次の課題を共有してできている。シリーズでプリントを入れるなどして、本人にも今やっていることが分かるようにしている。	やりたいと思うことはあるが、時間が足りない。まずは、今の流れで安全に運営できるようにしていきたい。明確な目標づくりを、共有をし成り立つようにしていきたい。
	6 保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	6	2		今年の2月からの事業開始なので、今回が初めての公表。話し合いや保護者の皆さんからいただいた意見を参考によい事業所にした。
	7 事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	4	2		同上
	8 第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	2	5		まだ導入できていない。
	9 職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	8		内外部の研修を積極的におこなっている。	
適切な支援の提供	10 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	8			
	11 子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	7	1	アセスメントはヴァインランドや田中ビネーなど標準化されたツールを利用している。ただ、時間が足りず、支援に生かすための仕組みが作り切れていない。	今後、どのように支援に生かしていくのか課題。
	12 児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	7			家庭状況により家族支援や移行支援の項目を追加している。
	13 児童発達支援計画に沿った支援が行われている	8			
	14 活動プログラムの立案をチームで行っている	8		療育リーダーを配置して、中心となりプログラムを立ててもらっている。色々な特技を持つ職員がいて、開設時よりもプログラムが豊かになった。	利用の人数が増えているので、発達年齢に応じ楽しめる活動が組めるように工夫していきたい。
	15 活動プログラムが固定化しないよう工夫している	8		活動を目的別(SST・言語・運動等)にして固定化しないようにしている。	今後も同じように固定化せずに楽しめるプログラムを提供したい。
	16 子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせる児童発達支援計画を作成している	8		一日のうちに、個別課題と小集団のプログラム、両方を組み込むようにしている。	子どもの登所時間によって、個別課題に取り組み時間がなかつたりすることが残念なことがある。その場合でも最低限、楽しんで帰ることは提供していきたい。
	17 支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8		朝礼で当日の打ち合わせと、前日の振り返りを行っている。当日のリーダーが決められており、リーダーを中心に活動を回している。	
	18 支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8			送迎から帰るとかなり遅い時間になるので(特に冬時間)翌朝にしている。必要な時はラインワークスなどを使って共有している。
	19 日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	8		支援記録は必ずつけている。	
関係	20 定期的なモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8			契約月の偏りから、ある月にモニタリングをするケースがかなり多くひっついた時期があった。今後はもう少し早く面談を組むなどして余裕を持って行いたい。
	21 障害児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	7		担当者会議が開催されたことがない。	
	22 母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	6		ケースにより、相談支援事業所や保健センターとのやり取りをしている。	
	23 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)地域の保健、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	5	1		該当なし
	24 (医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合)子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	5	1		該当なし

機 関 や 保 護 者 と の 連 携	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚園)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1		移行支援の該当者なし
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	1		移行支援の該当者はいないが、普通級から支援級の利用をお手伝いしているケースはある。
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障害者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	3	3	障がい児地域支援マネージャーには訪問していただき助言を受けている。	
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障害のない子どもと活動する機会がある		8		今のところ予定なし。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	3	4	一度参加し、地域の同業者と意見交換ができた。	
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8		気軽に連絡を入れてくださる保護者の方は、比較的多いと感じている。	利用人数が増えたことにより、対応に漏れや偏りが出ないように注意したい。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	4		今のところ余力なし。
保 護 者 へ の 説 明 責 任 等	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	8		兄弟の利用などにより、償還払いなどの説明もするようにしている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	8			
	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	8			定期的にはなく、相談があったときの方が多し。一回目のモニタリングがまだの人もいるので、合わせて話ができるようにしたい。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	8		令和5年は9月に開催した。予想よりも多い人数が参加していただき「楽しかった」との感想をいただいた。	来年はもう少し頻度を増やして開催したい。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	8		できるだけ迅速に対応するように努めている。	
非 常 時 等 の 対 応	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	8		会報は2回発行している。	周知が足りていないのか、保護者さんからは、「知らない」という意見もあり、今後の課題。新しく会報の担当を設置し、頻度なども増やして行くことにした。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	8			
	39	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	8			
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている		7	今のところ、そこまでの余裕がないので、今後検討していきたい。	イベントの開催なども検討したい。
	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	6	2		災害マニュアルや感染対策マニュアルは準備しているが、保護者への周知はしていなかった。
非 常 時 等 の 対 応	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	8		避難訓練は年に2回行ったが、アンケートの結果、知らなかった観客さんもいた。周知不足。	来年度からは、事前の周知とともに、行ったときは会報やSNSなどで保護者への周知を図る。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8			
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	4	3		アレルギーの重いお子さんについて、年度の代わりに学校に提出する書類のコピーをいただき保管する。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	7	1		ヒヤリハットはあり、記載もしていたが、新入社員への周知がされていなかった。また、慣れてしまっ、記載の頻度が減っている気もする。意識を改めて記入していく。
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	8		社会福祉協議会主催の研修などにも参加。	出前講座も利用して、理解を深めていきたい。
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	7	1		現状、身体拘束が必要なお子さんはいなくなっている。(一時はいたが、本人が落ち着いた)今後に向けて、契約時に説明するなどして、ご家族の心情に配慮するなどしながら、書類を作るようにしたい。